

弔辞

日商岩井株式会社相談役故西川政一殿のご葬儀にあたり、ここに衷心より哀悼の意を捧げ謹んでおわかれの言葉を申し上げます。

今年の一月西川さんは日商岩井社友会恒例の新年会にお元気なお姿で出席されご長寿をお祝いする米寿の銀盃を贈られて、参加した多くの後輩達から盛大な拍手をうけられました。

その時は大変なお喜びのご様子でありました。

その後もお変わりなく会社に随時お見えになっておられたので、至極お元気で過ごされたことと存しておりました。

それが思いがけもなく六月四日午前九時卒然としてご逝去なされたとの報に接し大変な衝撃をうけたのでありました。

承ればあなたはその前日までご家族と夕餉の団楽を共にされ、またその日の朝も普段と変わらず奥様とお話をさ

日商岩井株式会社
代表取締役会長 植田 三男

れ、そのあと暫くして恰も眠るが如く安らかに永遠の旅路に立たれたとのことでありました。あなたの慈愛あふれるあたたかい愛情を賜りながらこれからも末長くご指導をいただきたいと思っております。私達にとって誠に残念であり悲しみは筆舌に言い尽くせぬものがあります。

あなたは明治三十二年九月五日、兵庫県氷上郡竹田村でお生れになり大正三年竹田小学校をご卒業、一旦神戸鈴木商店に見習社員として入社されたのでありますが持前の向学心から働きながら勉学にいそしまれ現在の神戸大学の前身である神戸高等商業学校を大正十三年にご卒業、鈴木商店に再入社されました。

昭和二年金融恐慌による鈴木商店解散という苦難に遭遇されましたが、翌三年僅か四十名の同志と共に鈴木商店の商権の一部を引き継ぎ日商株式会社創立に参加され、

今日の日商岩井の基礎を築かれました。日商株式会社では最初神戸支店に勤務、そして昭和十二年にはニューヨーク所長として渡米され数少ない日本人の一人としてアメリカで日米開戦を経験されました。昭和十七年第一回日米交換船で帰国、東京支店金属部長として活躍され、終戦直後の昭和三十一年には取締役東京支店長に昇進されました。

顧みますと私は昭和十二年に日商株式会社に入社致しましたがあなたがニューヨークへご栄転になったあととの補充として神戸支店に配属されたのであります。爾来私は恰も会社でのあなたの輝かしい足跡を辿るように今日に至っておりますが、この間陰に常に変わらぬ温厚な笑顔でもって親しくご指導賜った大恩は私の生涯にとっ

て決して忘れ得ぬところでございます。取締役就任された後はあなたは主として東京に在駐され、関西育ちの日商を広く日本の、そして世界の総合商社へ飛躍させようと尽力されました。昭和二十八年常務取締役、三十二年専務取締役、そして三十三年に落合前社長のあとをうけて取締役社長に就任されましたが、

この間敗戦の混乱から日本経済復興の国家的使命の一翼を担い、あなたの生涯のモットーであった「世界は一つ」の信念の下に、アメリカ、ヨーロッパ、インド、東南アジア等の各国に精力的に出張され、世界と結ぶ日商の営みの布石をうたれたばかりでなく貿易による日本経済再建の先達として活躍されました。社長就任後もその豊かな国際感覚を生かして広く世界各国との経済交流に力をつくされ、総合商社の社長としては戦後初めてアフリカ大陸やパプア・ニューギニアなど発展途上の国々をも訪問され、資源開発、技術交流等世界貿易発展に大きな功績を残されました。

特に忘れてはならないことは昭和四十三年十月の日商株式会社と岩井産業との合併であります。当時の日本は戦後の復興期から高度成長期にさしかかり自由化の嵐など、極めて流動的でありましたが、あなたは将来の国際貿易の拡大、流通分野の変革などを予見し、内外の情勢にさきがけて岩井産業株式会社との合併を決意、断行され今日の日商岩井を実現されました。

日頃はいつも柔和な笑みを絶やされないあなたでした

が、この時の決断はあなたの叡智と半世紀に及ぶ貿易商社マンとしてのご経験と、そして経営者としての勇気が結集した断固たるご英断でありました。

合併に心血を注がれたあなたはその後突然の病魔に倒れられて、その後長期間病床に伏されることになりました。合併新会社のリーダーとしてその完成を目指しておられたにもかかわらず、志半ばにして倒れられ、さぞ病床で切歯扼腕されたことと存じます。

責任感旺盛なあなたは翌年には社長を辞任して会長に就任され、昭和四十七年には会長をも辞して相談役に退かれました。

あなたはその生涯を世界貿易発展に捧げつくされましたがそのご功績により昭和四十五年に勲二等瑞宝章受賞の栄に浴され、そしてこの度は正四位に叙せられ銀盃を賜与せられました。また大阪府より産業功労賞を、ブラジル、メキシコ両国政府からも文化勲章を授与されました。

このように秀れた経済人であったあなたは一方では明朗なスポーツマンでありました。長年日本バレーボール

協会会長としてバレーボールの今日の隆盛を築かれた功労者であります。昭和三十九年の東京オリンピック日本女子チームが金メダルを獲得した時、テレビを通じて拝見したあなたの幸せに満ちた笑顔は今なお私の脳裏に鮮やかに焼きついております。

「エバー・オンワード、絶えざる前進」があなたの motto であり何事によらず積極果敢、前向きに取組まれた。他方多くの人達との出会いを大切にされ常に思いやりと、こまやかな気配りをされる人間性の豊かな方でありました。私達はあなたから多くのことを学びました。これからもあなたのご薫陶を生かし一致協力して会社の発展に努力し、ひいては社会の発展向上に貢献することを新たに決意をもってお誓い申し上げます。

在天の西川さん、どうかご遺族をお守り下さると共に社運の発展をご照覧下さい。

ここに最後のおわかれをいたすにあたりあなたの生前のご功績を讃え、と共に深甚の感謝と哀悼の意を捧げて弔辞といたします。

昭和六十一年七月十六日

西川政一さんの思い出

齊藤 帛吉

西川さんに、最後にお目にかかったのは、五月二十六日で、お亡くなりになる一週間ばかり前のことである。

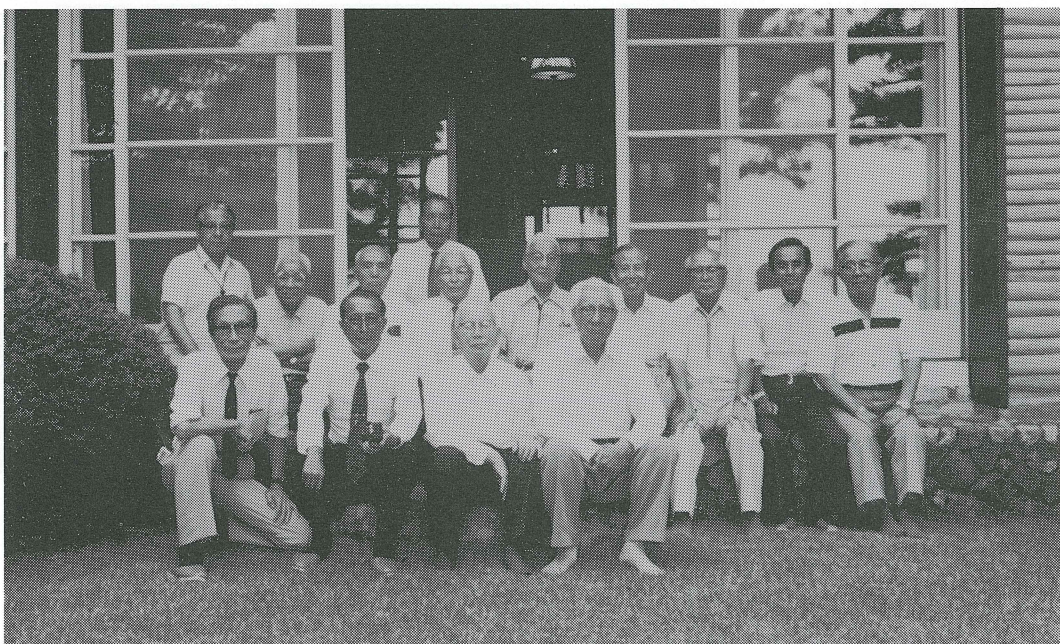
その日は丁度、辰巳会東京支部の幹事会の日で、日商岩井、東京本社の社友会室で、昼食をともにしながらの席である。

お身体の不調は、既に以前からであるが、その日も特に普段の時と、余りお変りはなかったのであるが、遂に帰らぬ旅の大往生と知らされ、驚きは一入であった。

西川さんの鈴木商店との因縁の深さを思えば、辰巳会が最後のときまで、長生きして頂きたかったのであるが、既に鬼籍に入った岳父の、西川文藏さんを始め、金子直吉翁、高畑、永井さんの許に赴かれた西川さんは、先輩の皆さんより、『ついに来たか、永々御苦労であったのう』と云われて居られるような気がしてならない。

辰巳会の発足は、終戦後、漸く世の中も落着を取戻しつつあった、二十四、五年頃、西川さんは、安東直市氏（当時、日塩社長、元金子翁の秘書）と協力して、鈴木血の通った人々の連がりを強固にして、鈴木精神を踏襲、その名を後世に伝えることこそ為すべきことであると行動に移した。

戦後の復興に努力しつつあった、元鈴木商店の人達は、各牙城に



昭和54年8月3日

於 六甲山上 太陽荘 辰巳会本部幹事会

割拠して居た。先づこの人達よりと呼びかけを始めたのである。

私はその頃は、名古屋、日商(株)の支店に勤めて居た。当時、高橋半助さん(元鈴木商店支店長)を中心に名古屋の人々が五、六名、A、B、Cクラブで集っていたので、今も健在な西川さんの元秘書T女史に、照会して見た。

正確ではないが、当時東京では、集場所は、銀座のスエヒロが多かったと、……

呼びかけた主な人々は、(敬称略)大屋晋三(帝人)、長崎英造(復興公団)、北村徳太郎(大蔵、運輸大臣)、竹田儀一(代議士)、浅田長平(神鋼)、六岡周三(播磨造船)、杉山金太郎(豊年製油)、賀集益蔵(三菱レーヨン)等で、今の総理大臣の中曽根さんも呼ばれたこともあったとか。

兎に角、名士ばかりであるが、最初はこう云うことから、辰巳会の基礎的な運動が起ったのである。

昭和三十五年神戸に本部を置き、組織を整えて高畑誠一氏を会長に仰ぎ、本部、東京及各支部に幹事を選任し、愈々強固なグループとして今日に及んだのである。

思えば、西川さんは、非常に文章の優れた人であるので、たくさん自著の中にも、このことに触れた部分もあるとは思いますが、これはその一端であると思って頂きたい。

書くべきことは一杯あるのであるが、一と先づ西川さんのご冥福を心から祈って筆をおきます。

畑薫さんを偲ぶ

附—当時の本店課物課のこと

福本三郎

畑薫さんが六月に御逝去された由承りました。貨物課以来の敬服する先輩を失いまして、誠に残念な事と御悔みを申し上げます。私等は、大正十五年入社若僧ですが其の時畑さんは貨物化のベテランで中心人物で御座いました。温厚篤実な人物で色々と私等もご指導を戴いたものです。畑さんは旧姓を井奥さんと申されて既に落着いた御家庭の方でありました。

倉庫の御仕事をされ、後年は浪華倉庫の役員を御勤めでした。私の直接の上司十河一正さんとは心を許し合った御付き合いで家庭内の事もよく話し合っ居られました。

貨物課は階下本店南の角にあって運送業者。各現場、港湾荷役、通関関係の方々の出入りが多く賑やかな空気の部屋でありました。

入社一年の私には詳しい事は判りませんが、課長の宇野さんがポーカーフェイスで中央に陣取られ海岸側の入口には通関関係の人達が出入りしました。中央に豊満肥大の大石さん。お名前の示す、魚崎辰之助さんと言う練達の方。秀才型で、少し神経質な祝さんと言われる人が中心にやって居られ、畑さんは倉庫関係、西川作藏さ



於中ノ坊(昭和38年5月13日)

今村 67才

沢村 77才

畑 64才



辰巳会東京支部幹事会/社友会室



1964(昭和39)年 東京オリンピック女子バレーボール優勝戦 (中央 故西川政一氏)